



## 年次総会概要報告

NPO 法人日本防火技術者協会発足後、第2回となる2004年度総会、講演会を開催しました。また、SFPE 日本支部総会も当総会后に、引き続き開催されました。

### NPO 法人日本防火技術者協会 平成16年度通常総会

日時 平成17年1月24日(月)  
14時~14時30分  
場所 東京理科大学森戸記念館  
議題内容

- 1) 平成16年度活動報告
- 2) 平成17年度活動計画報告
- 3) 会計報告
- 4) 監査報告
- 5) 理事、監事の選任
- 6) その他

#### 〔総会参加者〕

会員数：80名(賛助会員を除く)  
総会成立条件 委任状を含めて会員の過半数の出席(定足数40名)  
出席者 出席24名、委任状40名  
合計64名

#### 〔平成16年度活動報告〕

- 1) 調査研究事業(竣工建物見学会)  
2月23日清水建設技術研究所本館見学。14人参加。(ニュース2号)
- 2) 調査研究事業(講演会参加)  
1月28日：総会后東京大学にてユン・ミュンオ教授・ソウル市立大学 講演会に30人参加(ニュース2号)  
9月15日：東京大学にて室崎益輝・消防研究所理事長 講演会に65人が参加した(ニュース3号)
- 3) 調査研究事業(地下鉄探検隊)  
11月30日地下鉄・溜池山王駅周辺地下空間の防火についてのフィールドワーク。21人参加(ニュース4号)
- 4) 防火技術者の連携事業  
11月27日ホームページ開設、JAFPE ニュース(1~3号)をEmailで配信。

#### 〔平成17年度活動計画〕

- 1) 防火啓発事業  
消防機関などと連携し、防火まちづくりのあり方や技術の広範な普及のための活動を行う。
- 2) 調査研究事業(見学会)  
竣工建物の見学会などを企画する。建築学会や火災学会などとも連携する。年2回程度の開催を目指す。
- 4) 調査研究事業(講習会)  
火災安全性能や防火技術などの紹介のシンポジウムを建築学会や火災学会などと連携して年2回程度開催する。
- 5) 防火技術者の連携事業  
インターネットを活用する。Email配信やホームページなどで防火技術者の技術向上のための情報を提供する。また倫理維持のための防火技術者の職能などについても、広く建築学会や火災学会、関係諸団体とも交流して意見交換を行う。研究会は定期的に開催する。

#### 〔会計報告〕

承認された。

#### 〔理事改選結果〕

理事の立候補者9名に対して定員以内でしたので承認されました。  
(支部長) 佐藤博臣  
(副支部長) 富松太基  
(理事) 上原茂男、大宮喜文、笠原 勲、関沢 愛、原田和典、堀田博文、矢代嘉郎  
(監事) 濱田信義

#### 〔その他〕

中越地震・スマトラ沖地震に対する義捐金(各2万円)を送ることが承認されました。



SFPE・J ニュース  
(SFPE 日本支部  
の活動 第12号)

### SFPE 日本支部 2004年度通常総会

日時 2005年1月24日(月)  
14時30分~15時  
場所 東京理科大学森戸記念館

#### 議題内容

- 1) 2004年度活動報告
- 2) 2005年度活動計画報告
- 3) 理事の選任
- 4) 職能WG活動報告
- 5) その他

〔2004年度活動報告〕  
〔2005年度活動計画〕

#### 1) 防火技術職能WG

建築学会防火委員会防火技術職能検討WGとして活動、メンバーは富松(主査)、仲谷、水野、海老原、佐藤、角谷、中島、笠原、上原。2/20、3/31、5/31、7/29、9/22、11/12計6回会合。アンケートなども実施して「防火技術者の職能に関する報告書(案)」作成。職能アンケート結果などをパワーポイントで説明。次回総会(2006年)には倫理規定、行動規範をまとめる予定。教育についても研究。

#### 2) 防火教育WG

防火技術者の教育を目的に研究会を実施。メンバーは原田(主査)、大宮、栗岡、黒田、佐藤(博)、佐藤(淳)、志田、関沢、杜、富松、仲谷、名取、野竹、長谷見、堀田、松山、万本、矢代、山田の19名、5/20、9/27、11/29の3回開催した。防火関係出版物リストの作成と分類、本部の性能設計デザインガイドの輪読を行う。また、ルクセンブルグ会議報告会の企画をおこなった。当該WG後半は、東京理科大学21世紀COEプログラムの教育フォーラムとして開催することが合意された。第一回COE教育フォーラムは9/27に行い、原田がある建築学科での講義概要を説明した。

#### 3) SFPE ケーススタディWG

2004年10月6~8日のルクセンブルグでの第5回性能設計シンポジウムに建築学会防火委員会火災安全設計小委員会(萩原主査)と共同で参加。WG(大宮主査)にメンバー参加。純粋SFPE日本支部からは、水野、海老原、佐藤、角谷、竹市、中村(NTT)が参加。他のメンバーも主要メンバーは



SFPE メンバー。

次回シンポジウム(2006年)は日本での開催が決定的である。

#### 4) 見学会・講習会(事業WG)

1/28 ユン・ミョンオ教授(ソウル市立大学・都市防災安全研究所長)講演会参加

2/23 清水建設技術研究所見学

9/15 室崎益輝先生(消防研究所理事長)講演会参加

11/30 地下鉄探検隊 20名参加

2005年も積極的に行う。まずは東京理科大 COE プログラムに合わせ 3/8 にシンポジウム開催予定。場所は東京理科大森戸記念館を予定。SFPE メンバー(米・アジア)参加予定。

#### 5) 広報活動

SFPE-J ニュース(仮題)はそのまま「NPO 法人日本防火技術者協会」の広報ともなり日本防火技術者協会ニュース(JAFPE ニュース)の一部に掲載。

ホームページも日本防火技術者協会の中に SFPE-J ニュースを掲載。関連リンク、関連ニュース(ハワイ支部)を紹介。

#### 6) 対外活動

10月にルクセンブルグで米国外支部代表者会議に原田が参加し情報収集を行った。欧州では、スペインで支部が設立された。スイス、ポーランド、イタリア、ポーランドなどは設立可能性を探っている段階である。

11月からの本部の新体制下で、関沢理事が Board of Directors に就任した。

#### 【理事改選結果】

NPO 法人と同一役員が承認されました。

### シンポジウム(性能設計時代の防火技術者の役割)開催報告

1月24日の総会后、東京理科大学 21世紀 COE プログラム、建築・住宅国際機構との共催により、公開シンポジウム(性能設計時代の防火技術者の役割 - 性能基準と火災安全

設計法に関する国際会議報告を通じて今後の展望を考える)が東京理科大学・森戸記念館にて開催され、59名の参加者がありました。

ルクセンブルグで行われた性能規定と火災安全設計法国際会議への出席報告(竹市尚広氏: ㈱竹中工務店、松山賢氏: 東京理科大学)と、火災安全の ISO 規格の動向(西野加奈子氏: 建築・住宅国際機構)、性能設計の基盤に関する問題提起(原田和典: 京都大学)がされた後、国総研の平野吉信氏をお招きして、基準・規格類の各国の現況とこれからの展望を解説して頂きました。その後、討論が行われ、予定時間をオーバーして活発な議論が行われました。詳細は会員専用ホームページをご覧ください。



シンポジウム会場の様子

#### Brian J. Meacham 氏の講演会開催結果概要

日時 2005年2月2日(水)

15時00分~17時

場所 スクワール麹町

講演者: Brian J. Meacham, PhD, PE, FSFPE

表題: Fire Protection Engineering and Consulting

参加者: 15名

講演者は、現役の防火技術者であり Arup 社の火災リスクと防火に関するコンサルタントとして海外の支社の統括する立場にいます。

米国における防火技術者と建築関係法令の環境、防火技術者の性能の分析と性能設計へのアプローチ、Arup 社の紹介、関係したプロジェクトの紹介、討論等を行いました。

性能設計を行った場合の防火技術者の責任範囲などについての質問が出ました。性能設計を遵守する施主の責任が重い。香港等の事例では、

日本ではできないような建築構造と消防を結合させた例が紹介された。

### 21世紀 COE プログラム 第2回国際シンポジウムの開催

2005年3月7日(月)~9日(水)の3日間、国際シンポジウムが開催されました。各テーマを中心に、諸外国の火災安全工学研究の動きについて、また、アジア地区を中心とした火災安全工学・技術に関する職能について講演されました。2日目には、2005年2月竣工した火災科学実験棟を初公開されました。

#### 第1日: 3月7日(月)

「国際的火災安全工学研究拠点として求められる姿とは?」をメインテーマとして赤坂プリンスホテルでシンポジウムが開催された。

COE プログラム拠点リーダーである若松総合研究所火災科学研究部門教授の開会挨拶ののち、塚本東京理科大学理事長、岡村同大学長の挨拶が行われた。東京理科大学 21世紀 COE プログラムの紹介を森田拠点サブリダー同部門教授が、東京理科大学の火災研究・教育について大宮同大理工学部講師(SFPE 日本支部理事)が講演された。

J. G. Quintiere IAFSS 国際火災安全科学会第4代会長、神日本火災学会会長、室崎日本建築学会防火委員長、小川国交省住宅局建築指導課長、小林消防庁予防課長、関口東京消防庁次長が講演された。

午後の講演では、田中京都大学教授、Michael Delichatsios 英国アルスター大学火災科学研究センター教授、Robert Jonsson スウェーデン・リンク大学火災安全学助教授、James G. Quintiere 米国メリーランド大学防火工学教授、Weicheng Fan 中国科学技術大学教授、Shen-Wen Chien 台湾の中央警察大学消防研究所教授、Myong-O Yoon ソウル市立大学都市安全工学研究センター教授、Wan Ki Chow 香港理工大学教授、鈴木弘之筑波大学教授らが講演をされた。

講演後、Welcome Reception が開かれ親交を深めました。



# 日本防火技術者協会ニュース

特定非営利活動法人日本防火技術者協会

## 第2日:3月8日(火)

会場を東京理科大学野田キャンパス薬学部記念ホールに移して「火災安全工学技術を社会に浸透させるには？」をメインテーマとしてSFPEメンバーを中心に講演が行われました。

講演は、午前の部では、日本支部を代表して佐藤日本支部長の挨拶、日本支部紹介、並びに日本における性能設計の歴史等の紹介を行った。次にSFPE本部会長のSamuel Dannaway氏が、SFPEの活動の概要を紹介した。富松日本支部副支部長は日本における防火技術者の概要やアンケート結果及び性能設計事例を報告し、Wan Ki Chow教授(SFPE香港支部)が、香港における状況を説明した。

東京理科大学に2月末に竣工したばかりの長さ40m、奥行き26m高さ20mの実験場を含む火災科学研究センター実験棟の見学ツアーが行われた。

午後の講演は、堀田日本支部理事が、日本における防火安全関係者と得意分野の紹介とSFPE日本支部や教育機関の役割を述べ、Brian Byung Kug, An 韓国支部長が、韓国の防火技術者の紹介を行った。松山東京理科大学講師が、昨年開催されたSFPE性能設計に関するルクセンブルク会議での各国の設計手法についてまとめたものを報告された。総合討論が行われた。

SFPE関係者は、同日夕方開催予定のSFPEミニシンポジウムのために神楽坂キャンパス(森戸記念館)に向かった。

## 第3日:2005年3月9日(水)

東京理科大学神楽坂キャンパスの森戸記念館を会場に移して論文発表が行われた。

午前の部

セッション1では、避難、リスク解析、確率統計など、

午後の部

セッション2では、火災モデリング、消火、火災物理、区画火災など、

セッション3では、耐火構造などが発表された。

## SFPE 日本支部 ミニシンポジウム

アジアオセアニア地域のSFPE支部の相互交流ミーティング「各国における防災設計事例の紹介およびその中での防火技術者の役割」が開催され、関沢理事の司会進行のもとで、5カ国の代表が性能設計などの具体的な実施事例を含めて防火技術者の実状を講演されました。

日時: 3月8日 17:00 ~ 19:30

会場: 東京理科大学神楽坂キャンパス  
森戸記念館(東京・飯田橋)

あいさつ: 佐藤博臣(日本支部長) 講演

日本: 上原茂男(日本支部理事)

韓国: Brian An(韓国支部長、  
防火コンサルタント)

台湾: Dr. Wen-Chen Hsu  
(公的研究機関研究委員)

香港: Prof. Chow W.K.(香港支部長  
香港理工大学建築学科教授)

米国: Samuel Dannaway(会長 &  
ハワイ支部長: 防火コンサルタント)

上原氏は、中部国際空港の例を、台湾では、世界最高の超高層ビルの例などが紹介された。



Dannaway 会長の講演

各国の防火技術者の現状について活発な討論が行われた。



パネリストによる討論の様子

また、「アジア・オセアニア地域のSFPE支部による相互交流と地域活動の促進に関する計画について」討議が行われた。

シンポジウム終了後25名参加して懇親会を開催し親交を深めました。



SFPE本部会長、技術担当理事、他、韓国、香港、台湾各支部代表と日本支部役員一同

## SFPE 性能シンポジウム の開催予定

昨年10月ルクセンブルクで開催されたSFPE性能シンポジウムが来年(06年)6月に日本で開催される予定になりました。このシンポジウムは2年に1回の頻度で開催されています。日本支部理事会では開催にむけて準備中です。実行委員会を組織し本格的な準備に入る予定です。

## SFPE Journal の目次

Vol.14, No.4, 2004,

- ・ A Comparison of Driving Forces for Smoke Movement in Building. (建物内の煙流動駆動力の比較), F. W. Mowrer, J. A. Milke and J. L. Torero.
- ・ Thermal Decomposition Products from Fire Suppression with HFC-227ea in an Electronic Facility. (電子施設におけるHFC-227eaによる火災抑制時の熱分解生成物), A. K. Kim and J. Su.
- ・ Fire Setting by Nuclear Explosion: A Revisit and Use in Nonnuclear Applications. (核爆発による火災環境: 再評価と核施設以外への適用例), S. B. Martin.



# 日本防火技術者協会ニュース

特定非営利活動法人日本防火技術者協会

## Vol.15, No.1, 2005,

- ・ A Case Study : Determination of Maximum Spacing of Heat Detectors. ( ケーススタディ : 熱感知器の最大設置間隔の決定 ), S. Nam.
- ・ Development of a Framework for Quality Assurance of Performance-based Fire Safety Design. ( 性能的 火災安全設計における品質保証フレームワークの開発 ), J. Lundin.
- ・ Load Combination Requirements for Fire Resistant Structural Design. ( 構造耐火設計で要求される組合せ荷重 ), B. R. Ellingwood.
- ・ SFPE Classic Paper Review : Fire Behavior and Sprinklers by Norman J. Thompson, ( SFPE 古典的文献レビュー : トムソン著、火災挙動とスプリンクラー ), P. M. Fitzgerald.

## Fire Protection Engineering (SFPE 機関誌 紹介)

### FALL 2004

- ・ COVER STORY  
Unique Interiors on the Las Vegas Strips. ( ラスベガス通りのユニークな内装 ), Doug Evans, P.E.
- ・ Fire Testing of Interiors Finish. ( 内装仕上げの火災試験 ), Marcelo M. Hirschler, Ph.D.
- ・ The Role of Interior Finish in Fire Development. ( 火災拡大における内装仕上げの寄与 ), Robert Brady Williamson, Ph.D., and Frederick W. Mowrer, Ph.D., P.E.
- ・ Assessing the Burning Characteristics of Interior Finish Material - Standard Test Method for Surface-Burning Characteristics of Building Materials (ASTM E-84/UL 723). ( 建材の表面燃焼性標準試験法(ASTM E-84/UL723)による内装仕上げ材料の評価 ), Randy Laymon.
- ・ Fire Alarm Systems and Interior Finish - A Balanced Approach. ( 火災警報設備と内装仕上げ - バランスの取れた取り組み ), NEMA.

### WINTER 2005

- ・ COVER STORY : Fire Deaths in

the U.S. : How Best to Keep Reducing Them. ( 米国における火災死 : それらを減少させ続けるためにはどうすれば良いか ), Elliot F. Eisenbrg, Ph.D.

- ・ Vulnerable Populations in Residential Occupancies. ( 住宅に居住する災害弱者の人口 ), Ai Sekizawa.
- ・ Residential Fire Safety - Is the Age of Occupants Related to the Likelihood of a Fire Starting ? ( 住宅火災安全 : 火災発生の可能性に関連する居住者の年齢は ? ), Ian R. Thomas, Ph.D.
- ・ What Have We Learned About the Benefits and Costs of Residential Fire Sprinkler Legislation ? ( 住宅用スプリンクラー設置を義務づけることによる便益とコストについて我々は何を学んだのか ? ), Chris Jelenewicz, P.E.
- ・ Challenges Facing Engineered Structural Fire Safety - A Code Official's Perspective. ( 工学的な構造耐火設計への挑戦 - 建築主事の展望 ) Jonathan C. Siu, P.E., S.E.
- ・ The Mosquito and the Picket Fence - A Modern Day Fire Alarm Fable About Broad-band vs Narrow-band Signaling. ( 蚊とくい柵 - 現代の火災警報 : 広帯域と狭帯域の信号処理の得失 ), NEMA.

## SFPE TODAY

### JANUARY-FEBRUARY 2005

- ・ 新会長の挨拶  
新会長 Samuel S. Dannaway 氏の挨拶を掲載 (注 : 3月7日~9日の理科大COEシンポジウムに来日されました)
- ・ SFPE to Participate in 2<sup>nd</sup> International Symposium on the 21<sup>st</sup> Century Center of Excellence Program ( 会長と技術担当理事の Morgan Hurley 氏の講演が紹介されています。 )
- ・ SFPE Chapters Meet in Luxembourg ( 米国外支部の代表者が集まり、米国以外の支部を本部がどのように支援するかを討議した。日本支部からは原田理事が参加した。 )

## マドリード・ウィンザービル火災 の調査にメンバー派遣

2月16日深夜出火したマドリードの超高層ビル「ウィンザービル」で火災が発生しました。

国総研河野氏を団長にした調査団に SFPE 日本支部のメンバーが参加します。関沢、矢代、上原、萩原、宮本、道越、丹羽、池田の各氏です。概要報告の掲載を予定しています。

## 中越地震・スマトラ沖地震 義捐金の送金のおしらせ

通常総会で承認された義捐金として、中越地震災害義援金(長岡市災害対策本部)スマトラ島沖地震津波災害義援金(国境なき医師団日本)に対して各2万円の送金を2月22日に行いました。

## 理事会等の開催結果

理事会を以下の日に実施しました。

- 1月14日(金)
- 2月17日(木)
- 3月24日(木)

## 新入会員

新たに入会された個人会員1名、賛助会員1名の方々を記載しました。(敬称略)

- 〔会員〕松延 晋 [ Arup Japan ]  
〔合計 80 名〕
- 〔学生会員〕 [ 1 名 ]
- 〔賛助会員〕  
有限会社高橋建設コンサルタント  
〔合計 4 名〕

## ホームページ開設中

NPO 法人日本防火技術者協会のホームページを開設中。

URL は、<http://www.jafpe.or.jp> です。

SFPE 本部のホームページもご利用下さい。URL は、

<http://www.sfpe.org/sfpe30/index.htm> です。